

このまちに暮らしあとえ歳をとつても、障がいをもつても、経済的に困つても、住み慣れた地域の中で、できれば自分らしい生き方を全うしたいと思いませんか。



阿賀野市における 「地域福祉」とは!!

まず、市の福祉に対する基本的な方針について考えてみましょう。

- 地域福祉活動の活性化を促進。
- 市民や自治会、福祉団体等と連携し、地域福祉活動を推進する」とことで、地域全体がみんなで助け合い、支え合う地域づくり。

この基本方針から、6月号定した「阿賀野市総合計画(2016~2020)」の政策の一つである「安全・安心な暮らしの実現」の中で、「地

の增加

(1) 福祉サービスの需要量

6月号で紹介した市の人口動態として高齢者の増加に伴い、福祉サービスの需要量が高まり、財政への負担増が避けて通れない課題であることが理解されたでしょう。また、国自体も厳しい財政事情下にあることから、地方交付税の増額も期待できないものと考えています。

このように、市を取り巻く内外の経済的環境が変化している中で、今後の福祉施策の在り方について、まず、私たちが現状の認識を深めなければならぬと考えています。

- 域福祉の推進の施策として、次の基本方針(要点)を定めています。
- 市民への啓発活動により、地域福祉に対する理解を深め、ボランティア活動などに自主的に参加する人材の確保。
- 地域福祉の担い手の中から、特に中心的な役割を担うリーダーの育成・支援を行うことで、住民の活動が主体的に行われるよう地域福祉活動の活性化を促進。

次に、市の福祉・介護の現状について、各種統計資料で考えてみましょう。

状況について、各種統計資料で

福祉・介護の現状

家庭や地域が増えているのではないでしょうか。

この結果、問題視される社会現象として、

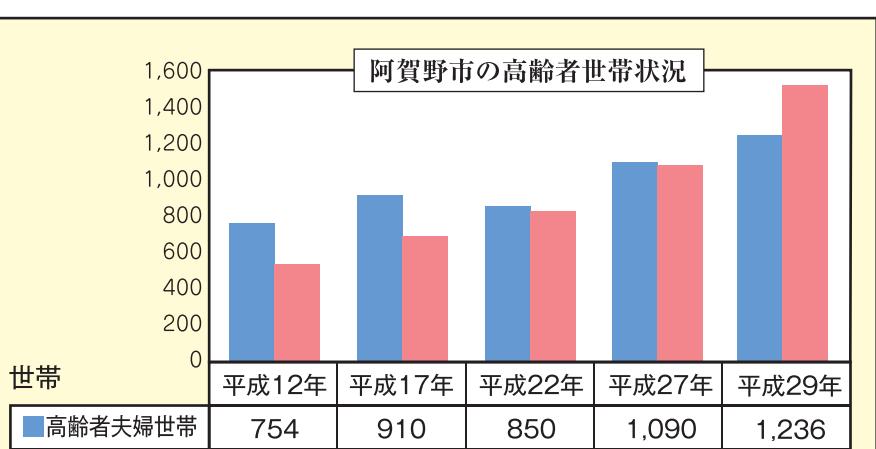
△ 地域社会の変化→地域社会における支え合いの脆弱化、地域社会の維持さえ

難しい状況『限界集落』の出現

△ 高齢者世帯の増加→生活支援等の増大、『老老介護』などが挙げられます。

市の人口減少が進む中で、世帯数は平成12年(12,624世帯)から平成29年(1,404世帯)へと増加していますが、市外からの転入

また、過疎化や高齢化が進展していくことによつて、経済的・社会的な共同生活の維持が難しくなり、社会単位としての存続が危ぶまれている集落、いわゆる『限界集落』も現実の問題として受け止めなければなりません。



【コメント】

- ①高齢者夫婦世帯は、人口が減少している中で増加を続け、今後も増加することが予測され、生活リスクに対して脆弱な世帯の増加が懸念されます。
- ②同様に高齢者単身世帯も年々増加し、平成29年は夫婦世帯数を上回り、急病や買い物などの生活支援の問題が生じています。自治会などの地域単位で生活支援などの支え合いの必要性が高まっています。

(出典:阿賀野市高齢者福祉計画他)

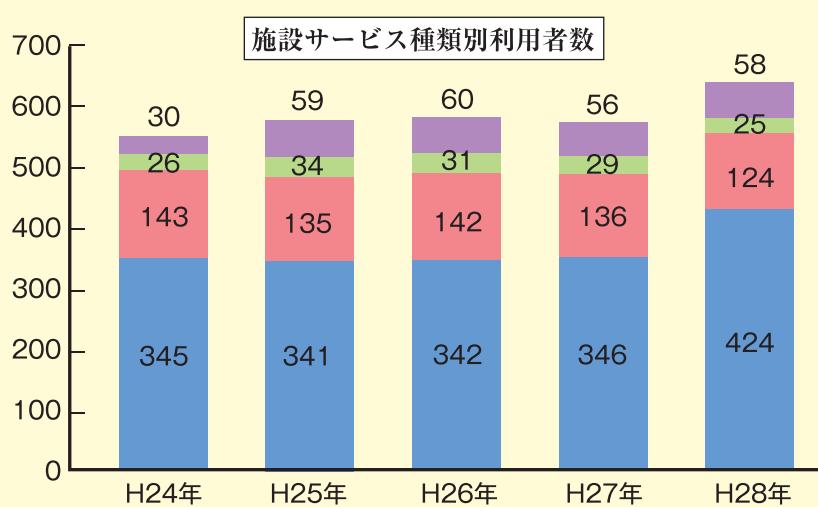
以外に核家族化によるものと推測されます。

この結果、お年寄りが若い人と別々に暮らす世帯が増え、身内で介護の面倒を見ててくれる人も少なく、老

老介護が社会問題化しています。

全市民、友と友、手を取り合い、阿賀野市活性!

(3)施設種類別利用者数



■介護老人福祉施設(特養) ■介護老人保健施設 ■介護療養型医療施設
■地域密着型介護老人福祉施設 (出典:阿賀野市高齢者福祉計画他)

【コメント】

施設サービス種類別利用者数の推移をみると、「■介護老人福祉施設(特養)」の利用者が最も多く、平成24年以降は340人前後で推移し、平成27年に100床増床したことに伴い、平成28年は424人に増加。「■介護老人保健施設」の利用者は、平成24年以降は140人前後で推移し、平成28年に124人に減少。「■介護療養型医療施設」の利用者は、平成24年から30名前後で推移。「■地域密着型介護老人福祉施設」の利用者は、平成26年以降は60人前後で推移しています。

今回、市にも待つたなしに人口減少と高齢化の波がどつと押し寄せていました。この大波に市が飲み込まれないように、しっかりととした防波堤（福祉・介護施策）を構築しなければなりません。

まとめ

今日は、「**福祉・介護とは何か、みんなで考えよう**」という、私たちの暮らしに身近なテーマでした。阿賀野市の福祉・介護の現状を少しでも理解していただけたでしょうか。

いま、市にも待つたなしに人口減少と高齢化の波がどつと押し寄せていました。この大波に市が飲み込まれないように、しっかりととした防波堤（福祉・介護施策）を構築しなければなりません。

昔は、大家族が同居し、3世代同居は一般的でしたが、地域での人と人との結び付きも希薄になり、核家族化によつて家族形態や地域社会も大きく様変わりしました。いまは、高齢者世帯や空き家も増え、「老老介護、孤独死」が社会問題化しています。

皆さん地域でもこのようないくつかの問題を抱えていませんか。これらの問題の解決を図るために、単に行政に依存するだけではなく、地域が主体となつてみんなで助け合い、支え合う地域づくりを進めていくことが必要ではな

阿賀野市が元気になる、提案・意見をお寄せ下さい。

次回テーマは「観光」です。
特定の思想・主義の主張や、他者への非難や批判ではなく、あくまでも建設的な内容に限ります。文字数は400字以内です。

ほかりけんじ事務所
〒959-2221 阿賀野市保田 737-2
TEL:68-5441 FAX:68-5515
Mail:kenji@hokaken.jp

た人が利用できる介護サービスは、大きく分けて**居住サービス**、**施設サービス**、**地域密着型サービス**の3つの種類に分けられます。

介護施設と言つても、種類が多くて、しかもサービスの内容、目的、使用料、入居条件なども施設によつて様々です。まずは、自分に合つた条件の施設を探すことになりますが、阿賀野市ホームページで市内の介護関係施設が紹介されています。

新緑と風薫る好時節となりました
が、皆様いかがお過ごしでしょうか。
春先に介護制度についての講演を
拝聴する機会がありました。講師の先生は、近年の**人材確保**と**利用者確保**の問題にも触れ、現実的背景として介護給付費の増加を始め、財源逼迫、要介護者の増加、そして何よりも人口減少から**人材不足**等々「地域包括ケアシステム」の意味、①まちづくりと②費用の伸びの抑制の一^二面性を力説されていました。

私たちもマンパワー不足が喫緊の

問題として職員確保に鋭意取り組んでいますが、十分な確保に至らないのが実情です。ぜひ、地域の皆様方からもご理解とご協力をいただければ幸甚でござります。

また私どもでお役に立てることがござりましたら、できるだけ応じられるよう、検討してまいりますので、ご連絡をお願いいたします。

これからもお客様の利用しやすいサービスの提供を考えてまいりますので、より一層の理解とご協力をお願い申し上げます。



いじょうか。

市内では、高齢者の単身世帯への生活支援事業（救急支援・買物支援・家庭内支援）として、先進的な取り組みをされている自治体もあります。

今後、弱者救済に向けての社会的支援の在り方を行政と自治会が協働して考え、行動することも必要かと考えています。

最後に、「このまちに住み、何

か困つている人を支えるときに、その人が持つている人の力を最大限発揮できるようにする」というのが、その人の尊厳を支えることになる。「この言葉こそが地域で求められる支え合いの姿だとも言われています。

この県政便りの小さな提案が大きなうねりとなつて、市民の皆さんへ広まる」とを期待しています。

◎「ほかりけんじ・県政便り」は、毎月1日に新聞折り込みでお届けします。

市民の声

「地域の皆様へ」

特別養護老人ホーム
白鳥荘 園長 鈴木 俊雄